

〈本書の内容〉

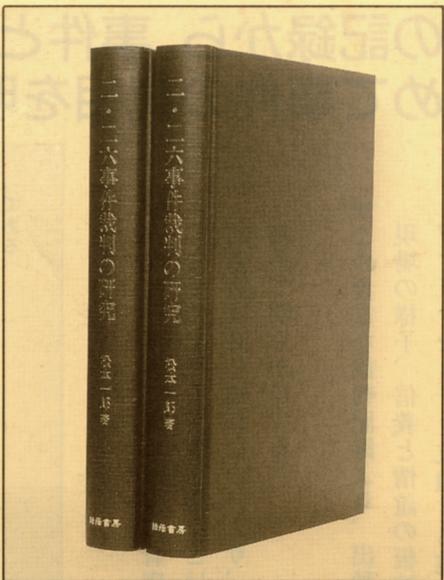
- 第一部 東京陸軍軍法会議の設置  
序説／戒厳と軍法会議／東京陸軍軍法会議設置の経緯／法律上の諸問題
  - 第二部 反乱部隊に対する軍法会議  
序説／反乱の謀議／出動命令／反乱行為の概要／訴追／将校班の審判／下士官班の審判／兵班の審判／終章
  - 第三部 牧野襲撃隊に対する軍法会議  
序説／被告人らの経歴と思想／標的・牧野伸顕／伊藤屋別館襲撃／軍法会議裁判／判決の問題点
  - 第四部 北・西田に対する軍法会議  
序説／北・西田裁判の経過／判決理由の概要／判決の批判／北・西田の刑事責任／結語
  - 第五部 叛徒小伝  
北一輝／西田税／安藤輝三
- 付録二・二六事件等関係文献目録

松本一郎著

## 二・二六事件裁判の研究

— 軍法会議記録の総合的検討 —

定価「本体7,500円＋税」  
▼A5判・上製クロス装・438頁



### 著者紹介

1930年 福岡県久留米市に生まれる  
 1945年 熊本陸軍幼年学校2年在学中敗戦・復員（第48期）  
 1954年 中央大学法学部卒業・司法修習生（第8期）  
 1956年 判事補 その後東京・盛岡・横浜の各地家裁に勤務して、退官（在職中に、安保条約を違憲とした砂川事件第一審判決に関与する）  
 現職 獨協大学法学部教授（1992年以降司法試験考査委員を務める）  
 専攻 刑事訴訟法

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

特約書店

現存していた裁判資料を駆使して二・二六事件の真相に迫る！

松本一郎著

# 二・二六事件裁判の研究

— 軍法会議記録の総合的検討 —

緑蔭書房

本書は、法学者の立場から、「東京陸軍軍法会議」裁判の記録を通して、二・二六事件裁判の問題点を明らかにしようとしたものである。いうまでもないが、裁判に、すべての事実や証拠が提出されるとは限っていない。したがって、裁判資料によって認めることのできた「事実」が、事件の唯一・絶対の真相だ、などというおこがましい主張をするつもりは、毛頭ない。私の研究の主要なターゲットは、二・二六事件の「裁判」であり、事件そのものではない。

もっとも、膨大な裁判資料の検討によって、初めて明るみに出た事実も少なくない。そこで、各部隊の出動状況・襲撃の状況・生々しい被害状況なども、できる限りこれを収録することにした。今後の事件研究の一助ともなれば、幸いである。

本研究の結果、確信をもっていえることが三つある。それは、第一に、「法律ニ定メタル裁判官」によることなく、非公開、かつ、弁護人抜きで行われた本裁判は、少なくとも北一輝などの民間人に関する限り、明治憲法の保障する「臣民ノ権利」を蹂躪した違憲のものであったということ、第二に、本裁判には、通常の裁判では考えられないような、訴訟手続規定を無視した違法が数多く存在したということ、そして第三に、北一輝・西田税を反乱の首魁として極刑に処した判決は、証拠によらないフレームアップ（でっち上げ）であったということ、以上の三点である。

▼一九九三年まで東京地検の倉庫に眠っていた二・二六事件の膨大な裁判文書（とくに公判記録・予審記録などは今回初めて目の目を見た公文書であり、その歴史的価値は計り知れない）より、事件の真相と軍法会議裁判の実態を法的視点から初めて明らかにする。

▼この貴重な裁判記録より、出動前夜の兵士たちの緊迫した状況や、生々しい襲撃現場の様子、信義と情誼の板挟みになった安藤大尉の苦悩、「本公判二ハ弁護人ガアリマセヌ」と抗議する被告人たち、上官の命令で出動したという下士官に対して、「命令ならば連隊長でも殺すのか」と詰め寄る裁判官、法廷でかばい合う北一輝と西田税の師弟愛など、これまで明らかにされたことのない数々の事実を淡々とした筆致で見事に再現。

▼著者はこの事件に対する軍法会議裁判は裁判形式に名を借りた殺人の儀式であったとし、とくに北と西田を反乱首魁として極刑に処した判決を怒りを込めて弾劾する。本書は、司法の歴史にこのような汚点を残した裁判関係者に対する告発の書であり、同時に恨みを吞んで処刑された人々に対する鎮魂の書である。

初めに  
おはよう

# 「軍法会議」裁判の記録から、事件とその裁判過程を追求。 法的視点から初めて事件の真相を明かす。

注文書		
帖合(貴店名)		
注文数	冊	
摘要	書名	発行
	一一・二六事件裁判の研究	緑蔭書房
		著者
		松本一郎
	本体7500円	
受注	年 月 日	
住所氏名		
		様